

「教育臨床総合研究 6 2007研究」

中国・小学校国語教科書の詩

Research of the Poetry Teaching Materials Found in a Chinese Language Textbook

足立悦男*

郭丹**

Etsuo ADACHI

Tann KAKU

要旨

本研究は、国語教科書の詩の比較文化的研究である。これまで、韓国の国語教科書の詩について比較文化的研究を行ってきた。¹⁾

本稿は、中華人民共和国（中国）の国語教科書の詩についての研究である。中国では、2000年に第8次基礎教育の課程改革を行った。改革の要点は「教学大綱」と教科書の見直しであった。「教学大綱」では「古詩文背誦篇目」をとくに重視した。

古詩文は唐・宋時代の詩であり、「背誦」とは暗誦・朗誦のことである。本稿は、小学校国語教科書における「古詩文背誦篇目」の実態を把握し、教材の紹介と分析・考察を目的としている。日中比較文化の観点から、中国の詩教材の特徴を解明していきたい。本研究は、郭丹（島根大学大学院教育学研究科修士課程修了）との共同研究である。詩の翻訳は郭が担当し、鑑賞文を足立が補った。そして分析・考察は足立・郭の共同研究として行った。最後に、日本の教科書との比較において、中国の詩教材の特徴をまとめた。

[キーワード] 第8次基礎教育の課程改革 教学大綱 古詩文背誦篇目

第I章 国語教育における古詩の役割

中国教育部は2000年に「基礎教育課程改革綱要（試行）」を制定した。この「改革綱要（試行）」では「中華民族のすぐれた伝統の継承と発展」が重視された。このことと、「古詩文」の重視、背誦篇目の制定は、密接な関連があるとみられる。「教学大綱」には、小学校で古詩詞80編の背誦が規定された。（ちなみに、中学校は古詩詞50編・古文20編、高校は古詩詞50編・古文20編。）ここで、まず、古詩の数の多さに驚かされる。日本の国語教科書では、1学年に3～4編の詩が載っている。それもすべて暗誦教材ということではない。また、日本の小学校教科書の詩の多くは現代口語自由詩である。中国では、なぜ、古詩を重視し、これほど多くの

*島根大学教育学部言語文化教育講座

**早稲田大学大学院アジア太平洋研究科（修士課程）

古詩を収録し、しかも「背誦」教材となっているのであろうか。これらを明らかにすることは、日本の国語教育を考えていく上で、参考になることが多いと思われる。

この分野の先行研究としては、安居總子（2005）の研究がある。²¹ 中国では、2001年に「全日制義務教育語文課程標準」が制定されて実験がはじまった。その「実験稿」には「総目標」（10項目）が示されている。安居の翻訳を要約すると、以下のようである。

①語文学習を通して、愛国主義感情と社会主義道徳を養い、文化的品位と審美的情趣を高める。②中華文化の豊かさを認識し、民族文化の知恵を吸収する。③祖国の語言文字を愛する心を育成する。④語言能力とともに思考力・想像力・創造性を伸ばす。⑤主体的な探求学習、実践的学習で語文を運用する。⑥漢語拼音（中国語の表音式表記）を習得し、普通話（現代中国語の標準語）で話す力をつける。⑦閲読（読む）力を身につけ、文学作品の理解鑑賞で高い情操と趣味の薰陶を受け、精神世界を豊かにする。⑧具体的に明確に自分の意思を表現し、一般的表現様式を使って文章を書く力を身につける。⑨日常の口語コミュニケーションの基本的な力をつけて、異文化間コミュニケーションを通して協力の精神を高める。⑩辞典・事典を使いこなす情報収集能力をつける。

この10項目は、「改革綱要（試行）」語文教育の「総目標」であるが、「古詩文」重視の観点でみていくと、興味ぶかい。中国の「古詩文」という文化は、多くの項目との関連をもっていることである。たとえば、①の愛国主義感情や道徳性、文化的品位と審美的情趣などは、古詩のもつ大きな役割である。唐・宋時代の詩である古詩は、②の豊かな中華文化として、また、すぐれた民族文化である。③の祖国の語文を愛する心の育成や、④の文化的想像力の育成、また、語学の面では、古詩文のもつ伝統的な定型詩の学習によって、⑦の閲読力（読む力）を身につけることや、文学の理解・鑑賞を通して情操と趣味の薰陶にもなる。

このようにみていくと、今回の語文教育における「古詩文」重視には、現代中国の国語教育において、大きな役割と期待が求められていたのではないか。本稿の研究は、この仮説を実証することにある。この仮説の実証によって、日本の国語教育、詩教育、国語教科書の編集、音声言語の教育（音読・朗読・暗誦）などに、多くの示唆を得られるものと思われる。

今回の教科書調査で使用したテキストは、『義務教育課程標準実験教科書 語文（YUWEN）』（課程教材研究所編著，人民教育出版社，2001～2006）。低・中・高学年の主要な教材を取り上げて、その特徴を明らかにしていきたい。教材内容の分析だけでなく、教科書の体裁、挿絵、字体にも特色があるので、一部の教材は教科書をそのまま使用している。（原本はカラー刷）また、作品の鑑賞においては、『唐詩鑑賞辞典』（前野直彬編）、『中国名詩鑑賞辞典』（細田三喜夫編）、『校注唐詩解釈辞典』（松浦友久編）などの先行研究を参考にさせていただいたところもある。記して感謝申し上げたい。

巻末に参考資料として、「古詩」一覧（原文）を載せた。学年ごとの主要な古詩の一覧表である。本稿と併せて参照していただきたい。（作品番号は、巻末の資料編「古詩一覧」と対応している。）

第Ⅱ章 国語教科書の詩

【第一冊】（1年 上）

1. 一去二三里



第一冊（1年上）の1「一去二三里」は、入門教材である。古詩ではなく、子供たちに親しまれてきた童歌であると思われる。一年生の国語第一課は詩であり、詩で漢字の数字を学習する。左の絵では、二人の子供が目に映る光景を数字で数えている。詩の中の助数詞（里、家、座、枝）も教材である。子供たちは詩と絵を見ながら、数字に対応する図案を探す。そして、「背誦」をくり返ししながら、詩のリズムによって漢詩の語感を学んでいく。右の絵は数詞の練習ドリルである。子供たちのシャツとボールに数字（算用数字と漢数字）が書かれている。親しみやすく工夫された入門期教材である。

その他に、以下のような古詩に注目できる。5「静夜思」（李白）は日本でもよく知られた漢詩である。「床前明月光／疑是地上霜／挙頭望明月／低頭思故郷」。窓から明るい月光が射し込んでいる。地上に降りた霜かと思わせる。頭を上げて遠くの月を望むと、同じ月を見ている故郷の人々を思う。日本の中学校の定番教材であるが、いきなり第一冊（1年上）に出ているので驚かされる。第一冊に出ていることから、内容理解よりも、一年生の時から中国のすぐれた古典文化に直接ふれさせる、という方針であるようだ。伝統文化の継承という役割である。また、6「憫農」（李紳）も特徴のある古詩である。真夏の太陽の下で、田んぼで労働する農夫。流れる汗は稲の下の土にしたたり落ちる。誰が知っていよう、一粒一粒の米が労働のつらさの結晶であることを。「粒粒辛苦」という成語の出典となった詩である。労働の大切さ、一粒の米の大切さをうたった、低学年向けの倫理的な内容の詩である。

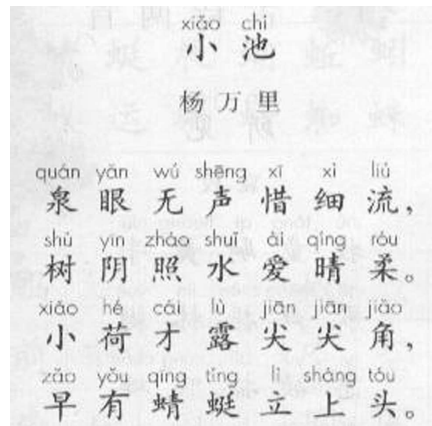
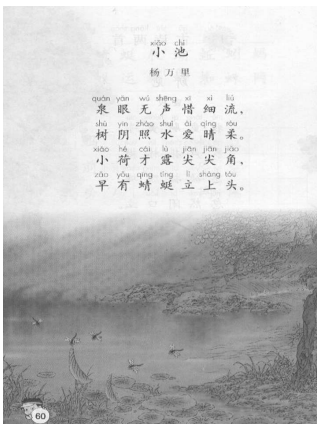
【第二冊】（1年 下）

1. 春曉



第二冊（1年下）には、のどかな田園風景を描く詩が多い。1「春曉」（孟浩然）は、日本でもよく知られた漢詩であり、中学校の教科書に載っている。日本では絶句の「起承転結」の入門教材として使用される。春眠のテーマを示す起句、鳥の鳴き声で受ける承句、昨夜の雨に一転させる転句、そして、花は散ったであろうと、全体をしめくくる結句。「曉／鳥／少」に押韻がある。みごとな五言絶句である。左の絵はその情景をよく映している。「静夜詩」と同じく低学年のときから古典文化を継承していく、という教材であろう。日本の小学校一年生の教科書ではありえない事例である。

4. 小池



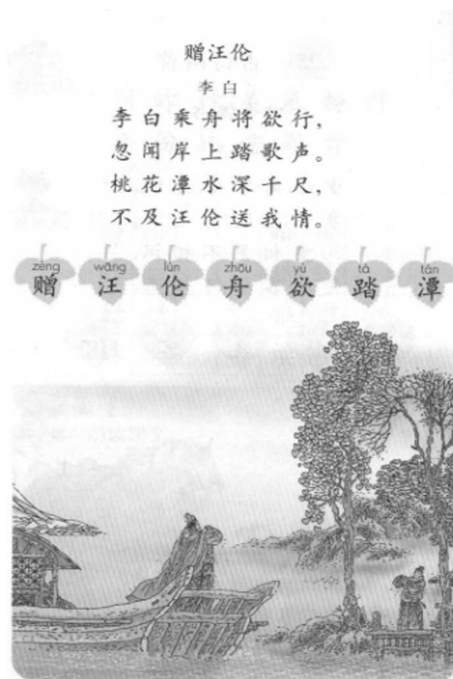
その他にも、4「小池」（楊万里）は、木の陰は池を映し、蓮の葉はまだ若々しくて角がとがっているが、夏を知らせるトンボはもう止まっている。左の絵をみると、小さな池、柳の枝、蓮の葉、そしてトンボの群れが描かれている。2「村居」（高鼎）も田園風景の詩である。岸辺の柳が芽吹き、春霞の頃になると子どもたちは、春風によって風を揚げる。3「所見」（遠牧）も牧童と黄牛のいる、のどかな田園風景を描いている。1年下巻の特徴である。

【第三冊】（2年 上）

3. 回郷偶書



4. 贈汪倫



第三冊（2年上）では、人情を描く詩が出てくる。3「回郷偶書」（賀知章）は、帰郷の詩である。幼いときに故郷を離れ、年取って帰郷した老師の思いを綴っている。故郷の方言は変わらないけど髪の毛は白髪になった。子供たちは私を見ても分からなくて、笑顔で、「お客さんはどこから来られたか」と聞く。老大師と子供たちの心の交流を描く。4「贈汪倫」（李白）は別れのうたである。李白が桃花潭に遊んだとき、汪倫は不遇の李白を心からもてなした。「贈汪倫」は二人の別れをうたった友情の詩である。桃花潭の水は千尺も深いけど、私を送る汪倫さんの友情の深さには及ばない。友情は「千尺」の水より深い、という比喩は、低学年の子供にもわかりやすい。挿絵はその別れの場面である。中学年の第七冊には、「黃鶴樓送孟浩然之廣陵」（李白）と「送元二使安西」（王維）という、日本の中学校国語の定番教材が出てくる。友情と別れのうたは中国の教科書の重要なテーマの一つである。低学年でまず、内容のわかりやすい「贈汪倫」からと、配当学年の配慮がなされている。

【第四冊】（2年 下）

第四冊（2年下）には風景詩が多い。次頁の4「望廬山瀑布」（李白）は、廬山の香炉峰の滝を描いた風景詩である。日光が廬山を照らすと、雲は紫の煙のようにみえる。大きな布のような滝を望むと、その勢いは一気に三千尺の高さから落下し、天から銀河が落ちてきたかまがうほどである。廬山は江西省の名山。香炉は廬山の峰の一つ香炉峰のこと。後半の「飛流直下三千尺／疑是銀河落九天」の「三千尺／九天」という数詞を使った対句は、日本の詩にはみられない雄大な風景を生み出している。数詞の力を実感させる表現法である。左の絵は、感嘆する人物を点描することで、廬山の瀑布の雄大さを強調している。

4. 望廬山瀑布



望廬山瀑布

李白

日照香炉生紫烟，
遥看瀑布挂前川。
飞流直下三千尺，
疑是银河落九天。

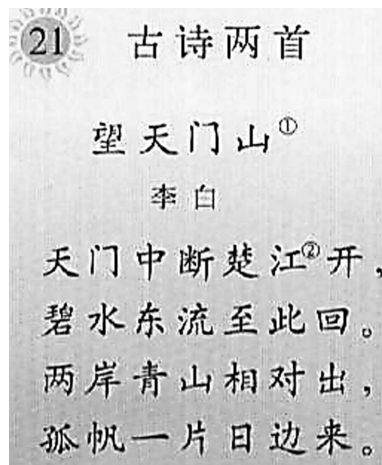
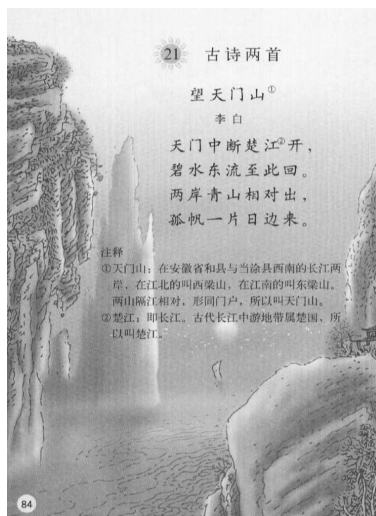
その他にも、5「絶句」(杜甫)は、平和な船泊まりの風景をうたった風景詩である。「両箇黄鶯鳴翠柳／一行白鷺上青天／窓含西嶺千秋雪／門泊東吳万里船」。二匹の高麗鶯は柳のそばで鳴きだした。白鷺の群が青空に向かって飛んでいく。窓の外には西山の頂上をおおう千年も消えない雪が見える。門の外には万里も離れた東方の呉からの船が泊まっている。西嶺は成都の山。黄と翠、白と青、千と万などの対比が効果的に配置されている。この詩は、杜甫が成都に帰り、平和な暮らしを楽しんだときの作品といわれている。杜甫の詩はこの他に、6年生に三編採用されている(6年上-2、6年下-4、7)。杜甫の詩は、日本では「春望」「絶句」「兵車行」「岳陽楼に登る」などの作品が中学校、高校の教科書の詩に採用されている。

3「敕勒歌」(北朝民歌)は、北方中国の内モンゴ地方の雄大な風景詩である。「敕勒」(ちよくろく)は内モンゴ地方の種族名。「敕勒川 陰山下／天似穹廬籠蓋四野／天蒼蒼 野茫茫／風吹草低見牛羊」。このように長短句をまじえた古詩である。陰山山脈のかなたに、敕勒川がゆったりと流れている。空は巨大なパオに似ていて、四方の原野を覆っている。空は青く澄み、原野は果てしなく広い。放牧されている牛羊の群れが草原の果てに現れる。北方中国の雄大な風景詩であり、中国の広い風土をうたった詩として採録されたと思われる。5「絶句」(杜甫)とは対照的な風景詩であり、風景詩の配置においてもバランスが考えられている。

【第五冊】(3年 上)

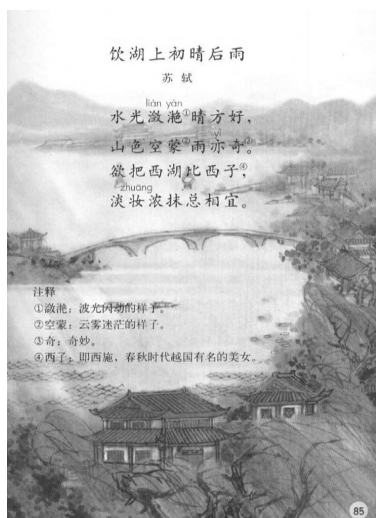
第五冊(3年上)においても風景詩に注目してみたい。次頁の4「望天門山」(李白)は、李白が揚子江を下るときに、天門山にさしかかって作った詩である。天門山は挿絵にあるように、揚子江をはさんで門のように見える。天門山はまん中で二つに断ち切れて、楚江が流れている。兩岸には青山が相對し、その間を小舟が天の彼方から流れてきた。挿絵はこの情景をそのまま写している。天門山との対比で「孤帆一片」が凛々しく存在感を表している。挿絵の効果もあって雄大で美しい叙景詩となっている。原文はカラー版の美しい風景画である。

4. 望天門山



5 「飲湖上初晴後雨」（蘇軾）は、絶景で有名な西湖（浙江省）の景色を、西子（西施）の美になぞらえた作品。西湖の光景を西施にたとえると、薄い化粧でも濃い化粧でもよく似合う。西施は春秋時代の絶世の美女として知られる、歴史上の人物である。この詩は、歴史上の人物を登場させた作品であり、中国の名勝地と歴史上の人物を教材化の観点としたものと思われる。挿絵も西湖の光景を強調している。芭蕉の「象潟や雨に西施がねぶの花」（奥の細道）はこの詩をふまえている。

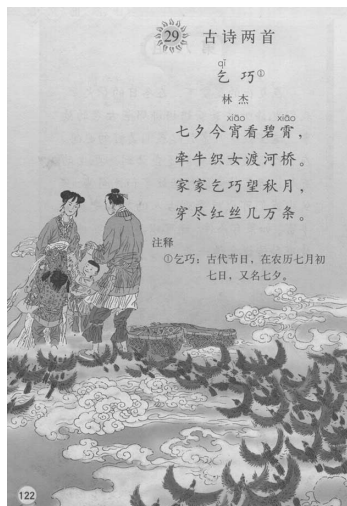
5. 飲湖上初晴後雨



【第六冊】（3年 下）

第六冊（3年下）には、民間伝説や神話に由来する古詩が採用されている。4 「乞巧」（林傑）は、七夕伝説の詩。「乞巧」は織女星を祭り、手芸の上達を願う風習のこと。七夕の夜は空の雲を見ると、牛飼いと織姫が橋を渡っている。人間界にいる人々は天の川を見ながら、何万本の赤い糸を繋いでお祈りする。挿絵は天の川で、子供を連れて再会した二人が描かれている。

4. 乞巧



5. 嫦娥

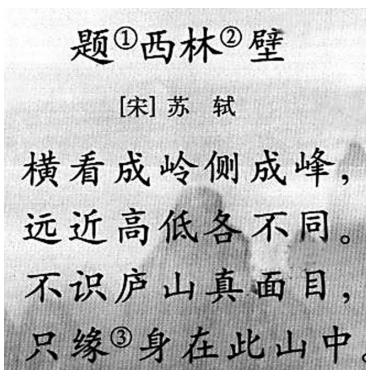


5 「嫦娥」(李商隐)は、神話を題材にした詩である。嫦娥は神話に登場する女性で、不老不死の薬を盗み自分だけ月の世界に行った、という伝説がある。雲母の屏風もしだいに暗くなり、銀河のあたりに星がかかった。嫦娥はきっと薬を盗んだことを後悔し、毎夜空で反省している。二つの作品とも中国古来の伝説・神話を背景にしている。古詩によって、七夕や中秋節(月を祀る行事)など、行事の由来を学ぶこともできる。伝説や神話、行事の由来などは、中学年頃の年代の興味をひく題材である。これも中学年の特徴といえる。

その他には、3 「遊子吟」(孟郊)という詩がある。故郷を離れて遊学する作者が母への思いをうたった詩である。母の手に握られている糸は、遊学に出かけようとしている子供の着ていく衣服を縫う。出発する前に、母は旅の衣服をしっかりと縫ってくれる。母を思う子供の心は、子供を思う母の愛に報いることができるだろうか(できない)。母の愛(慈愛)をうたう詩である。倫理・道徳をテーマとした一連の古詩の一編である。

【第七冊】(4年 上)

1. 題西林壁



第七冊（4年上）になると、風景詩の中にテーマ性をもった詩が登場する。教訓とか友情とか別れという主題を風景の中で描くような古詩である。

前頁の1「題西林壁」（蘇軾）は、一見風景詩に見えるが、実はある教訓（ものの考え方）を述べた詩である。廬山は横からみると山脈に見えるが、近寄ってみるといくつもの峰になっている。遠くから見るのと近くから見るのと、それぞれ違った姿をしている。山の本当の姿が分からないのは、山の中にいるからである。ものごとの本当の姿はその中には見えない、という教訓がふくまれている。低学年の古詩にはみられなかった、中学年の教訓詩である。

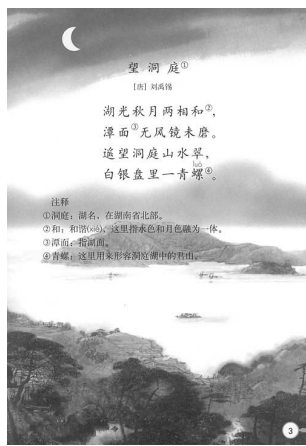
その他には、日本でもよく知られている二編の送別のうたが登場している。3「黄鶴楼送孟浩然之広陵」（李白）、4「送元二使安西」（王維）である。日本の中学校の代表的な漢詩教材であり、送別のうたとして大人にも親しまれてきた。「黄鶴楼送孟浩然之広陵」は、友人の孟浩然が広陵を離れて揚州に出発する。船の姿は次第に消えてゆく。残るのはただ空の果てまで流れていく長江の水である。「送元二使安西」は、友人の元二を送る別れのうたである。「勸君更尽一杯酒／西出陽關無故人」のフレーズは日本でも送別の辞として親しまれている。代表的な別離のうたは中学年に配置されている。

【第八冊】（4年下）

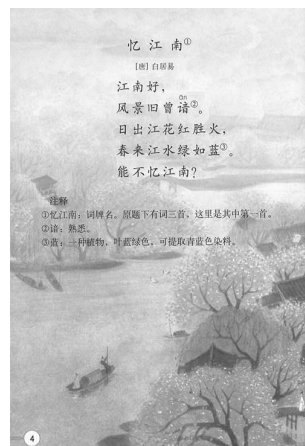
1. 独坐敬亭山



2. 望洞庭



3. 憶江南



第八冊（4年下）には、中学年らしい風景詩シリーズが出てくる。たとえば2「望洞庭」（劉禹錫）は、湖南省の有名な洞庭湖が舞台である。湖の光と秋月はよく似合う。湖の表面には風がなく、磨くまえの鏡のようだ。遠くから洞庭湖の水と真ん中の島を望むと、まるで銀皿の上の一個の美しい青タニシのようだ。絵にもその様子が描かれている。3「憶江南」（白居易）は、江南の風景をたたえた詩である。江南の風景はすてきだ。日の出になると長江の花は火のように赤く咲く。春が来ると長江の水は緑色にそまる。江南を思い出すときである。名勝を題材としたこのような風景詩シリーズは中学年の特徴である。

【第九冊】（5年 上）

第九冊（5年上）では、家族や故郷に対する思いをこめた詩が登場している。中学年では、友情や母親への思いを述べた詩であったが、高学年になると、家族や故郷に対する思いが変わっていく。愛情の対象を広げて、家族や故郷に対する深い愛を育てようとしている。

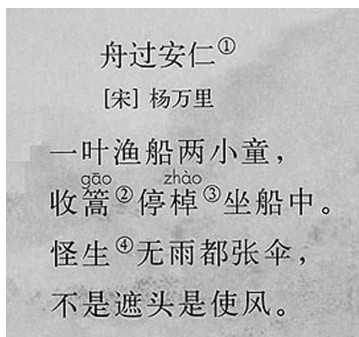


2「秋思」（張籍）は望郷のうたである。故郷にいる妻に手紙を書くが、思いを尽くせないとこころがあり、使者を待たせて閉じた封を切って読み直す。3「長相思」（納蘭性德）は兵士の望郷のうたである。夜になると風が強く、雪も激しくなった。激しい風音は兵士たちに、故郷を思う心を目覚めさせる。日本の防人の歌（万葉集）にも通じる望郷の歌である。

【第十冊】（5年 下）

第十冊（5年下）に、子供の出てくる一連の詩がある。中学年までの子供の詩と比べると、知恵に長けていることに特徴がある。登場する子供には成長がみられる。

2. 舟過安仁



2「舟過安仁」(楊万里)は、漁船の上に二人の子供がいて、櫂を収めて船の中に座っている。雨が降っていないのに、なぜか傘を開いている。風を利用して船を進めようと工夫している。このように、高学年の子供シリーズには、知恵を使う同世代の子供が登場する。「村居」(1年下)で凧揚げしていた子供は、大きく成長した。古詩の選択において登場する子供の成長も考えられている。

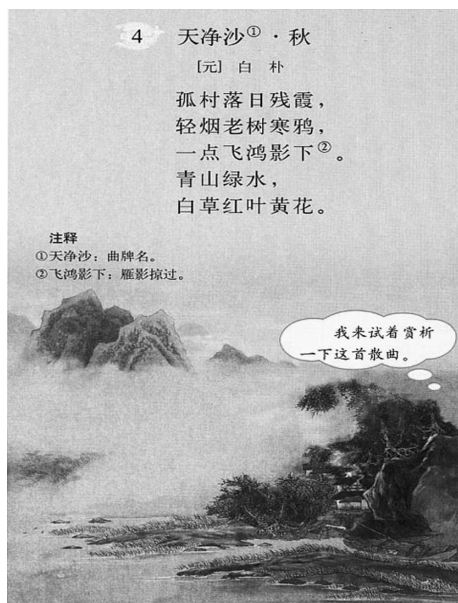
【第十一冊】(6年 上)

第十一冊(6年上)の古詩には、「詩海拾貝」とある。「詩海拾貝」とは、古詩の数は海のようによく(多くて)数えられない。その中からすぐれた貝(古詩)を選んで鑑賞する、という意味である。そして、今までみられなかった多様なジャンルの古詩が登場していて、詩の内容だけでなく、詩の形式にも配慮されている。1「采薇」(節選)一詩経、2「春夜喜雨」(杜甫)一五行律詩、3「西江月・夜行黄沙道中」(辛棄疾)一詞、4「天浄沙・秋」(白朴)一曲、という構成である。これまでは唐・宋時代の絶句を中心とした教材化であったが、6年になって、詩経(周代初期の詩)、律詩、詞、曲といったジャンルに拡大されている。高学年の大きな特徴である。以下は、3(詞)、4(曲)の教材例である。詞も曲も中国の韻文詩の一種で、多様な形式がある。歌謡文芸、韻文文芸として庶民に親しまれてきた。挿絵には、やはり教材にふさわしい風景が描かれている。

3. 西江月・夜行黄沙道中



4. 天浄沙・秋

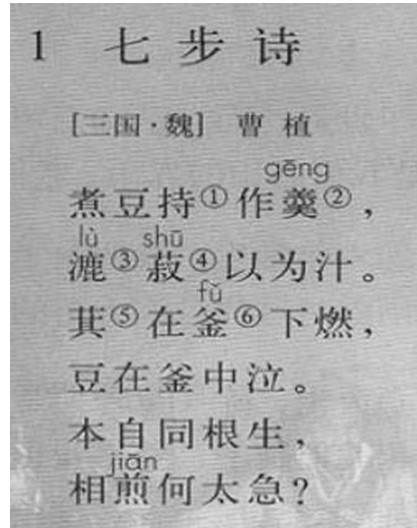
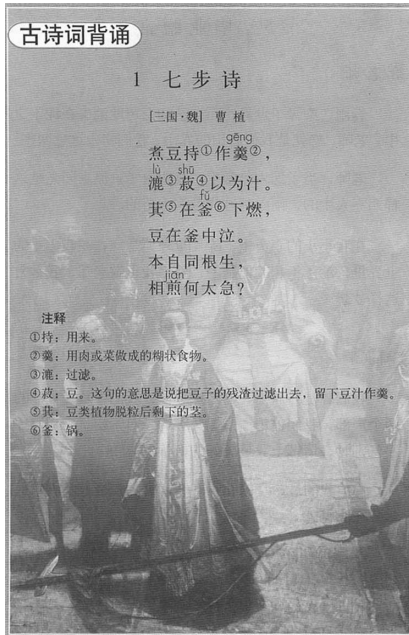


【第十二冊】(6年 下)

第十二冊(6年下)は、教科書最後の一冊である。古詩には「古詩詞背誦」とあり、「背誦」教材として十編の詩で構成されている。作品の傾向としては、最終学年を意識してか、人間の生き方を題材とした思想的、倫理的な内容の作品が多い。

1 「七歩詩」(曹植)は、三国時代の逸話になった詩である。豆柄をたいて豆を煮ると、豆は釜の中で泣く。もともとは同じ豆の根から生まれたのに、なぜ争い合うのか(自分を苦しめるのか)。兄の文帝が弟の文才を妬んで、七歩あるく間に詩を作らせた。弟の曹植は豆にたとえた詩を作り兄を諷めた、という故事。兄弟はどうあるべきか、を問う、高学年らしいレベルの逸話である。挿絵も歴史的な背景を重々しく表現している。

1. 七歩詩



その他に、5 「石灰吟」(於謙)も思想をうたった詩である。山の奥から採掘された石は、火で燃やされても平気である。どんなに砕かれても壊れることはない。自分の気骨を世間に残せるとしたら、どんなに苦勞してもかまわない。「粉骨碎身」(力のかぎり努力すること)という人生訓を訴える詩である。この作品にも子供たちの生き方を鼓舞する強い主張がみられる。6 「竹石」(鄭燮)は、竹は青山にある岩の間に根付き、しっかり青山を噛んでいる。様々な打撃を受けてこそ、ますます強くなり、どんな激しい風にも負けない。この詩にも、子供たちに、困難に負けないで強く生きてほしい、というメッセージがある。8 「己亥雜詩」(龔自珍)は、天下国家を憂えた詩である。いずれの詩も高い思想性、倫理性を訴えていて、最終巻にふさわしい内容である。六年間をしめくくる「古诗词背诵」の総合単元といえる。

第三章 中国の詩教材の特徴

以上、現代中国の小学校教科書・詩教材について、作品の紹介・解説をしながら、各冊(各学年)の特徴について考察してきた。ここで、日本の国語教科書・詩教材との比較において、その特徴をまとめておくことにする。

1. 古詩文の再評価―唐・宋の古詩

今回の調査によって、小学校教科書における「古詩」の比重はとても大きいものであった。「改革綱要（試行）」「総目標」との関連においても、とりわけ重視されていることが明らかになった。I章でみた10項目の、たとえば①「愛国的感情や道徳性」「文化的品位と審美的情趣」、②「豊かな中華文化」「すぐれた民族文化」、③「祖国の語文を愛する心の育成」、④「文化的想像力の育成」、⑦「文学の理解・鑑賞」「高い情操と趣味の薫陶」といった項目は、古詩の教材価値として大きな役割を与えられている。現代詩よりも近代詩よりも、唐・宋時代の古典（古詩）に大きく傾斜した背景には、この事情が大きかったものと思われる。中国国語教育における古詩の重視は、現代中国国語教育の重点的な課題をになう「試行」であったと考えられる。

2. 風景詩・叙景詩―絵と文の調和

全体的な傾向として風景詩・叙景詩が多いが、多いだけでなく学年発達を配慮して配置されている。低学年の「村居」「小池」「所見」などは、かつての純朴な田園風景を写している。中学年の「望天門山」「飲湖上初晴後雨」「題西林壁」「望洞庭」などは、中国各地の名勝地をうたう詩であった。高学年の「西江月」「天浄沙」などは静謐な叙景詩である。同じ風景詩のジャンルにおいて低・中・高学年の学年発達が考慮されている。日本の教科書・詩教材には、このような日本の風土をうたう風景詩というのは少ない。

本稿では、各冊の古詩を、いくつか教科書の挿絵そのままを使用した（原本はカラー版）。そのために、詩と絵との相関性をみる事ができた。「小池」「回郷偶書」「贈汪倫」「望廬山瀑布」「望天門山」「嫦娥」「望洞庭」「憶江南」「秋思」「長相思」「石灰吟」（絵は略）「竹石」（同）などの風景詩をみていくと、挿絵をみていくだけで、学年の発達が明らかになる。低学年の子供たちの身の回りの生活風景の絵から始まり、中学年になると中国各地の歴史的名勝を舞台とした絵になり、高学年になると思想的なテーマをもった風景画に発展していく。また、風景詩の特徴として、挿絵と併せて鑑賞することで理解も深まっていく。中国の教科書における絵と文は、視覚的な映像を背景とすることで、古詩の世界を鑑賞する上で大きな相乗効果を生み出している。

3. 中国の歴史と風土

日本の詩教材との違いとして、中国の歴史と風土をうたう詩が多いということがある。日本の詩でいえば地名を歌枕としてうたう和歌のような世界であるが、日本の小学校の詩には少ない。低学年の「敕勒歌」は内蒙古地方の古謡であり、「望廬山瀑布」は江西省の名山をうたう詩であった。中学年の「飲湖上初晴後雨」は西湖の景色を西施の美になぞらえた作品であり、「乞巧」「嫦娥」は七夕や中秋節の由来の詩であった。風景シリーズの「望洞庭」「憶江南」は名勝地として知られる洞庭湖や江南をうたう詩である。高学年の「長相思」は辺境を守る兵士のうたであり、「七歩詩」は三国時代の故事をふまえた詩であった。このような古詩には、中国の歴史と風土に対する「愛国的感情」「すぐれた民族文化」「祖国の語言文字を愛する心」を育てる、という意図が反映している。

4. 倫理・思想

倫理的、思想的な主題をもつ作品もあり、意図的に配列されている。低学年の「憫農」は、真夏の炎天下ではたらく農夫を描き、一粒の米が辛い労働の結晶であること、労働の大切さをうたう。低学年らしい倫理的な内容の詩であった。中学年の「遊子吟」は、故郷を離れて遊学する息子と母をえがき、親孝行という儒教倫理をテーマとしていた。「題西林壁」は、山の本当の姿が分からないのは、山の中にいるからであり、ものごとの本当の姿はその中には見えない、という教訓がふくまれていた。低学年の教材にはみられなかった教訓性である。高学年の「七步詩」は、もともと同じ根から生まれたのに、なぜ互いに苦しみを与え合うのか。兄弟の結束と兄弟愛をうたう、高学年らしいレベルの内容であった。「石灰吟」は、山の石灰をたとえにして、「粉骨碎身」という人生訓を訴えた詩であった。「竹石」もまた、強く生きてほしい、というメッセージをもった詩であった。友情というテーマの詩もある。低学年の「贈汪倫」は、不遇の詩人李白を心からもてなした汪倫との友情と別れのうたである。中学年には「黄鶴楼送孟浩然之広陵」「送元二使安西」という、日本でも代表的な友情と別離のうたである。友情と別れのうたは、教科書の重要なテーマの一つであり、配当学年にも配慮がなされていた。

5. 言語表現の教材

教科書には多くの唐・宋時代のすぐれた古詩が採録されていた。古詩の充実は、伝統文化の継承をとおして、その言語表現に学ぶ、というねらいもあったと思われる。低学年の「望廬山瀑布」は、江西省の名山望廬山の滝をうたった詩であったが、「飛流直下三千尺／疑是銀河落九天」という表現がある。大きな布を広げたような瀑布は一気に三千尺の高度から落下し、銀河が天から落下してくるようである。その光景は雄大で雄渾である。七言絶句という漢語表現の生み出す世界である。「望天門山」に、「兩岸青山相對出／孤帆一片日邇來」という一節がある。兩岸に青山が相對し、その間を一枚の小舟が天の彼方から流れてくる、という美しい情景である。兩岸の青山との対比によって「一片の孤帆」は凜とした存在感を得ている。古詩は、中国現代文にはみられない表現の力を内在している。その表現力を引き出す役割も古詩の教材化にはあったと思われる。「祖国の語言文字を愛する心」は、古詩に内在する言語表現の力（ことばの力）によって育成される。

6. 音声言語教材

古詩は漢語のリズムの文学である。その特徴を最大限に生かした教材化がなされている。教科書の古詩の多くは絶句の形式であった。そして、起承転結の構成は形式をとらえやすく、押韻の法則や対句の法則なども、子供たちが作品の内容や形式をとらえやすい条件となっていた。また、一年生の古詩にはピンイン（ローマ字の発音表記）が使用されている。中・高学年でも地名や新出漢字にはピンインのルビがふられている。音声言語としての配慮からである。中国の「古詩」の復活には、「背誦」文化としての古詩という考え方があった。詩の内容の読解・鑑賞だけでなく、背誦（暗誦）という音声言語表現によって、古詩の伝統文化を受容していく、という考え方である。音読・朗読という音声言語表現は、詩の世界をまる

ごと受容できる、という大きなメリットがある。日本の小学校の詩教材の多くは、口語自由詩であり、中国古詩のような「背誦」による鑑賞は成立しにくい。日本の詩教材は、音声言語教材としての見直しが必要である。

7. 日中教科書研究の可能性

最後に、日中の比較教科書研究の可能性について述べておきたい。日本の国語教科書において、中国の詩（漢詩）は、現在、小学校の教科書には載っていない。中学校の教科書では不可欠の教材である。中学校の現行版（5社）を調査してみると、「春望」（杜甫）は4社、「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」（李白）は4社、「春暁」（孟浩然）は2社、「絶句」（杜甫）は1社、「元二の安西に使ひするを送る」（王維）は1社、「静夜思」（李白）は1社、となっている。日本の中学校教科書において、中国の詩は定番教材になっている。が、この事実は、私の知るかぎり、中国の教育研究者にあまり知られていない。日中比較教科書研究の必要な所以である。中国の古詩と日本の和歌には、日中の定型詩としての共通性がある。とともに日中文化の差異もある。たとえば、中国教科書の古詩と、日本の教科書の和歌（万葉集、古今集、新古今集）との相互研究によって、比較文化研究の交流が生まれるかもしれない。教科書の詩を通じての日中比較文化研究の可能性である。

日本の文化審議会は、「これからの時代に求められる国語力について」（2004）という答申において、「音読・暗誦と古典の重視」を強調している。³⁾ 齋藤孝（2001）は、委員の一人として、日本の教育に「暗誦・朗誦文化」の復権を主張してきた。⁴⁾ ここでいう「日本文化の古典」には、日本文化に大きな影響を与えてきた漢詩（中国の古詩）も含まれている。その意味で、今後、漢詩は日本の小学校教科書に登場する可能性はある。そのとき、中国の教科書における古詩と、その指導法は貴重な研究資料になると思われる。

〔注〕

- 1) 足立悦男・金京姫「韓国・国語教科書の詩 1」『島根大学教育学部附属教育実践研究指導センター紀要』第9巻、1998。足立悦男・金京姫「韓国・国語教科書の詩 2」同、第10巻、1999。足立悦男・鄭淳功「韓国・国語教科書の詩 3」同、第11巻、2000。
- 2) 安居總子「中華人民共和国における語文教育 — 小学校1年から古典教育と暗誦の重視」『月刊国語教育研究』2005年6月号。
- 3) 「音読や暗誦を重視して、それにふさわしい文章を小学校段階から積極的に入れていくことを考えるべきである。特に日本の文化として、これまで大切にされて継承されてきた古典については、日本語の美しい表現やリズムを身に付ける上でも音読や暗誦にふさわしいものであり、情緒力を身に付け、豊かな人間性を形成する上でも重要なものである。」（文化審議会「これからの時代に求められる国語力について」2004）
- 4) 齋藤孝は、「文章の意味はすぐにわからなくともいい。長い人生のプロセスの中で、ふと意味のわかる瞬間が訪れればいい」「本当に質の高いものに幼い頃に触れる。そのことが、おそらく五十年後、六十年後になっても人生を豊かにしつづける」と述べて、暗誦・朗誦文化の復権を提唱している。また、齋藤の編集したテキストには、「静夜思」「春望」「春暁」「偶成」「元二の安西に使ひするを送る」などの漢詩が採用されている（『声に出して読みたい日本語』2001）

【資料編】

「古詩」一覧（原文）

第一冊（1年 上）

1.一去二三里 无名 2.咏鹅 骆宾王 3.画 无名 4.画鸡 唐寅 5.静夜思 李白 6.悯农 李绅

第二冊（1年 下）

1.春晓 孟浩然 2.村居 高鼎 3.所见 袁枚 4.小池 杨万里

第三冊（2年 上）

1.赠刘景文 苏轼 2.山行 杜牧 3.回乡偶书 贺知章 4.赠汪伦 李白

第四冊（2年 下）

1.草 白居易 2.宿新市徐公店 杨万里 3.敕勒歌 北朝民歌 4.望庐山瀑布 李白 5.绝句 杜甫
6.节气歌 无名

第五冊（3年 上）

1.小儿垂钓 胡令能 2.夜书所见 叶绍翁 3.九月九日忆山东兄弟 王维 4.望天门山 李白
5.饮湖上初晴后雨 苏轼

第六冊（3年 下）

1.咏柳 贺知章 2.春日 朱熹 3.游子吟 孟郊 4.乞巧 林杰 5.嫦娥 李商隐

第七冊（4年 上）

1.题西林壁 苏轼 2.游山西村 陆游 3.黄鹤楼送孟浩然之广陵 李白 4.送元二使安西 王维

第八冊（4年 下）

1.独坐敬亭山 李白 2.望洞庭 刘禹锡 3.忆江南 白居易 4.乡村四月 翁卷 5.四时田园杂兴 范成大
6.渔歌子 张志和

第九冊（5年 上）

1.泊船瓜州 王安石 2.秋思 张籍 3.长相思 纳兰性德

第十冊（5年 下）

1.牧童 吕安 2.舟过安仁 杨万里 3.清平乐 村居 辛弃疾

第十一冊（6年 上）

1.诗经·采薇（节选） 2.春夜喜雨 杜甫 3.西江月·夜行黄沙道中 辛弃疾 4.天净沙 秋 白朴

第十二冊（6年 下）

1.七步诗 曹植 2.鸟鸣涧 王维 3.芙蓉楼送辛渐 王昌龄 4.江畔独步寻花 杜甫 5.石灰吟 于谦
6.竹石 郑燮 7.闻关军收河南河北 杜甫 8.己亥杂诗 龚自珍 9.浣溪沙 苏轼
10.卜算子 送鲍浩然之浙东 王观

（注：唐詩名句—5首、古詩名句—5句など、部分引用の作品は省略。）